

都風流輝耀花苑 全七景

第60回

京おどろ

期間★平成21年4月4日(土)～19日(日)  
 場所★京都・宮川町歌舞練場

開催期間◆4月4日(土)～19日(日)  
 開演時間◆毎日3回  
 12時30分・2時30分・4時30分  
 開場◆各開演時間の30分前  
 料金◆入場券・茶券付……………4,500円  
 (税込) 入場券……………4,000円  
 お茶券……………500円  
 プログラム……………500円  
 主催◆宮川町歌舞会  
 後援◆京都府・京都市・京都市観光協会  
 協賛◆学校法人 東山女子学園

・住所 京都市東山区宮川筋四丁目306  
 (京阪祇園四条川端下町)

・TEL 京都(075)561-1151～4



宮川町の歴史

十六世紀の後半、豊臣秀吉が方広寺、伏見城を築いたことにより、大和大路はにわかには人の往来が増え、その街道沿いに町並みが形成された。四條通りの鴨川南は、ここで毎年、祇園社のミコシ洗いが行われているので宮川と呼ばれ、この川筋に出来たのが宮川町である。寛文十年(一六七〇)鴨川護岸の石積みが完成し、急速に宮川町の町並みが整い、当時歌舞伎の流行とあいまって、茶屋町として発展していった。

第60回 「都風流輝燿花苑」 全七景

作演出	谷村陽介
作曲	今藤長十郎
作舞	若柳吉蔵
作舞	若柳竜二郎
作調	藤舎名生
作調	六郷新之助

第一景 天磐戸開き

天上界の高天原。天磐戸を開いて、尊い御姿を現わされた天照大御神莊嚴の妙音と、眩い光彩に包まれ、八百万の神々の慶びはひとしおです。六十回記念の京おどりは、神話の磐戸開きの祝意にあやかり、未来へと進展します。

第二景 嵯峨野菜花

嵯峨野二面に菜の花畑。春がすみも晴れ、可愛い娘たちが、明るい笑顔で、菜の花に戯れ遊んでいます。陽炎のたつ、春の野の、愉しい娘のころです。

第三景 鳥獣戯画譚

鳥羽僧正の鳥獣戯画から抜けて出た、猿と兔と蛙の三匹が、里の柿の実をどつさり落とし、盗みます。そこへ、鳥羽僧正がやって来て、窘めます。三匹は、奪った柿を僧正に差し出し、許しを請います。僧正は聞き入れ、柿を持って上機嫌で去ります。後姿をよく見ると、僧正には狐の尻尾が付いておりました。

第四景 寿花狸々舞

琵琶湖のほとり、大盃金泥の中から抜け出した狸々たちが、酒徳をたたえて、狸々舞をゆたかに舞います。絢爛華麗の衣裳と、威風ただならぬ莊重の舞は、まことに見事です。

第五景 名花の華扇

(その一 宇治の船頭) 宇治川岸辺の雨上がり。粋な女船頭が、舟から上がっておのろけ囃し。洒落た艶っぽいおどり姿は、名妓の花舞です。(その二 伏見の酒造) 京の伏見は銘酒の酒造りの町。杜氏の仕込みから腕自慢など花を咲かせた明るい群舞を披露します。

第六景 祇園祭宵山

祇園祭の宵山、駒形提灯の煌き。舞妓らの祇園囃子の演奏も花やかにそして舞妓の群舞があでやかに、花の踊りをくりひろげます。宵山の鉾町に笑顔が飛びます。

第七景 宮川音頭

平安神宮の、桜満開の花舞台。絢爛華麗のフィナーレは芸妓、舞妓の総おどりで、花やかにこらんいただきます。